

# 笠岡諸島の紹介

特定非営利活動法人かさおか島づくり海社



# 1. 笠岡諸島の概要



笠岡諸島データ (2021.7.1時点)

人 口 : 1,467人  
高齢化率 : 72.5%

笠岡市全体 (2021.7.1時点)  
人 口 : 46,080人  
高齢化率 : 37.5%

## 【笠岡諸島】

笠岡諸島は岡山県の南西端の笠岡市沖にあり、大小31の島々で構成されています。その内の高島、白石島、北木島、真鍋島、大飛島、小飛島、六島の7島が有人島です。

## 【アクセス】

各島へは、住吉港から運航している旅客船で行くことができます。また、白石島と北木島へは伏越港からそれぞれフェリーが運航しており、車やバイクなどを乗せて行くことも可能です。

## 2. 笠岡市の概要



近代までは海運業が栄えたが、昭和期以降大型船が用いられるようになると、遠浅な笠岡港に接岸することはできず海運業は廃れていった。

戦前までの主力産業は花卉を含む農業と島嶼部の採石業。戦後は**備後工業整備特別地域**として、市内には日本鋼管福山製鉄所（JFEスチール）が誘致され、福山市などと共に工業化が進んだ。また新たに造成された広大な笠岡湾干拓地では酪農を含めた農業が発展している。

山陽新幹線、山陽本線、山陽自動車道、国道2号線といった中国地方の主要な物流、**交通の大動脈が市内を東西に縦貫している。**

【人 口】46,546人

（男：22,338人 女：24,208人）

【世帯数】22,055世帯

※いずれも2021.8末現在



# 3. 笠岡諸島の魅力 〈環境〉

## 高島

漁師とつつじの島

歴史ある史跡が古代のロマンをかきたてる



住吉港から約8km沖合の高島は、古くから瀬戸内海航路の要衝として栄えたといわれ、古事記に記されている神武天皇東征の際の高島行宮（あんぐう）が置かれた島、という説もあります。南側には尾根伝いに延びる遊歩道があり、登っていくと、途中の展望台からは360度、瀬戸内の穏やかな風景が見渡せます。またつつじの季節には、島民の方が大切に育てたつつじが群生して咲く様子も見られます。かつては採石業と海運業が盛んだったそうですが、島の漁師が獲った新鮮な魚を提供する民宿や、風景を目当てに訪れる観光客の増加などもあり、今では観光と漁業の島となっています。また、観光底引き船、定置網などの漁師体験も、近年人気を得ています。

## 白石島

祈りとマリンスポーツの島

夕焼けの中踊る白石踊は神秘的



周囲約10kmの笠岡諸島で2番目に大きい白石島は、古来有名な風光明媚の地であり、国指定の名勝にもなっています。

お盆に行われる国指定重要無形民俗文化財の「白石踊」は源平水島合戦の戦死者の霊を弔うために始まったと言われており、唄い手と太鼓の周りを円を描いて様々な型の踊り手が回る、全国的にも非常に珍しい盆踊りであり、踊りの見学や体験ツアーも毎年行われ、多数の観光客を魅了しています。

夏の白石島は海水浴客も多く、岡山県の三大海水浴場にも数えられ、民宿、海の家もありシーカヤックなどのマリンスポーツも楽しむことができます。また国際交流ヴィラもあり、外国人観光客の姿もよく見られる島となっています。

その他にも、見どころは多く、鬼ヶ城と呼ばれる山の頂上近くにある「鑑岩」は、国指定天然記念物になっており、碁盤の目のように割れ目が入り、縦横の節理が直角に交差し鑑の直垂に似ているといった、まさに名前の通りの鑑のような岩となっています。

また、鑑岩に続く高台には昭和45年に建立された白色に輝く「仏舍利塔」があり、タイのワットパクナム寺院から奉納された仏舍利（お釈迦様の骨）と1200年前の釈迦如来像が祭られています。



NPO法人

かさおか島づくり海社



# 3. 笠岡諸島の魅力

## 北木島

石と流し雛の島。  
荒々しい採石跡が島の歴史を物語る。



笠岡諸島最大の島で、人口は約960人（H26.9）、お笑い芸人「千鳥」の大喜の出身地として近年認知されつつあります。

花崗岩の産出と加工で栄え、岡山県産『北木石』は、香川県産『庵治石』、愛媛県産『大島石』と並び、瀬戸内の三大銘石の産地として称されました。内陸の道路網が未整備だった時代に、船を利用した海運による納期厳守と良質な大材が採れることにより、全国各地だけでなく海外にまでその名を馳せ、かつては、一大産地として君臨していたとも言われています。

その実績としては、徳川幕府が再築した大坂城の石垣、旧日本銀行本店、明治神宮、靖国神社などで北木島の石が用いられました。現在では安価な輸入石材に押されて採石は減ったものの、石材加工の技術もあるためその輸入石材の加工が盛んです。

現在の豊浦地区・金風呂地区には、表面を削り取られた山々が、かつて石材産業が繁栄を極めた痕跡を残すようにそびえています。

また、北木島の流し雛は和歌山県加太の浦の淡島明神信仰にまつわる行事として300年ほどの歴史があり旧暦3月3日直前の日曜日に、北木島大浦地区で行われています。

「流し雛」とは、麦藁で作った「空船（うつろふね）」に、桃の花や菱餅とともに、紙で作った雛を乗せ海へ流すと、その年は無病息災でいられると言われる女性の厄除け行事です。『源氏物語』須磨の巻に光源氏がお祓いた人形（ひとかた）を舟に乗せて須磨の海へ流すという著述があり、原型は遠く平安時代にさかのぼるといわれています。かつては全国各地で行われていた行事ですが、岡山県をはじめ今ではほとんど姿を消したといわれています。

# 〈環 境〉

## 真鍋島

歴史と映画の島。  
のんびりと歩いて昔ながらの漁村を楽しむ



住吉港から約18kmにある島で、島名は、真南辺の島、つまり備中国小田郡の南端にある島という意味で、後に真鍋の字をあてたと考えられています。

平安時代末期に藤原氏の一族が水軍の根拠地を置いて真鍋氏を名乗り、全盛期には付近の島々をことごとく支配下に治めていたという説や、源平合戦で平家方に属した真鍋氏の城址や供養のために建てたと伝えられる石造宝塔などの史跡があり、また西行法師の「山家集」に詠まれるなど、歴史を今に伝える記録や史跡・行事の多さは、笠岡諸島でも随一です。

港には石積みので防があり、のどかな漁村の佇まいを残している島として岡山県が「ふるさと村」に指定しており、「瀬戸内少年野球団」など映画のロケ地にもなった風景は、走り神輿などの有名なイベントの効果もあって、多くの観光客を魅了しています。



NPO法人

かがおか島づくり海社



# 3. 笠岡諸島の魅力 〈環 境〉

## 飛島

潮待ちと椿の島。

寄りそう大小の島にはかつて砂の架け橋がかかった。



住吉港から約18kmにある島で、一般的に大飛島・小飛島をあわせて飛島（ひしま）と呼ばれます。笠岡諸島は古くから瀬戸内海の交通の要衝で、中でも大飛島付近は瀬戸内海の東西の潮が離合する場所といわれ、往来する船がこの地で潮待ちをしていたと考えられています。その潮待ちの島、ならではなのかは分かりませんが、奈良時代から平安時代にかけての祭祀遺跡が発見され、おびただしい数の奉獻品が出土したということがあり、笠岡諸島の中でも飛島が重要な地であったことが伺えます。かつては、大飛島の南東にある大浦港の近くから、東に砂洲が鳥のくちばしのように小飛島に向かって延び、大飛島と小飛島を結ぶ架け橋ともいわれていましたが、潮流の変化の影響などから現在では殆ど見ることはできなくなっています。2～3月には島内に自生している300本余りの椿が見頃を迎え、島を周遊する4kmのハチマキ道を巡って楽しめます。地元のグループにより椿油づくりや、島のおもてなしとして古くから手打ちうどんづくりが有名です。

## 六島

灯台と水仙の島。

白い灯台と水仙が美しく青空に映える。



住吉港から約22kmにあり、笠岡諸島最南端の島であるとともに、岡山県の最南端でもあります。六島の南約4.5kmにある香川県庄内半島三崎との間は、潮流の速い海峡で、瀬戸内海を横断する大型客船などの重要航路となっています。この航路の安全を守るため、六島には岡山県で最初に灯台が設置されました。その灯台の周辺をはじめ、島内のあちこちに島民の方々が中心となって植えた水仙が、1月から2月にかけて可憐な花を咲かせ、その水仙群生を目当てにシーズンには多くの観光客が訪れます。



NPO法人

かさおか島づくり海社

### 3. 笠岡諸島の魅力 〈食べ物など〉



左より イカ・タイ・アジ・タコ

北木島の天然灰干し「魚々干し」



六島の六島浜醸造所によるクラフトビール



### 3. 笠岡諸島の魅力 〈食べ物など〉

Frozen oysters for raw food

旬は一年中  
喜多嬉かきの、生食用冷凍かき、



北木島 勇和水産の牡蠣



六島 天然ひじき



### 3. 笠岡諸島の魅力 〈文 化〉



真鍋島 走り神輿



六島 大鳥神社の神輿行事

### 3. 笠岡諸島の魅力 〈文 化〉



北木島「石切唄」



白石島「白石踊」 ※国指定の重要無形民俗文化財



## 5. 笠岡諸島の現状

- 少子高齢化による事業・地域活動の担い手不足
- 空家・空工場の増加
- 民間事業者の撤退によるサービスの減少（移動手段、買い物手段）
- 島間の連携・交流機会の減少

## 6. 笠岡諸島の課題

- 地域運営・事業運営の参画の体制・環境づくり
- 空き家・空き工場の利活用の推進
- 民間事業者等との新たな視点・テクノロジーを活かした連携
- 島々との連携の磨き上げ
- 海洋体験学習など交流事業のレベルアップ



# 6. 笠岡諸島の課題

## ○地域運営・事業運営の参画の体制・環境づくり

・住民同士のつながりは深い。行政、大学など教育機関との繋がりもある

→交流機会（交流人口）を活かし、地域活動や、事業運営に参画してくれる人のすそ野を広げていく必要がある



# 6. 笠岡諸島の課題

## ○空き家・空き工場の利活用の推進

- ・空家、空工場は増加する一方であるが、そのまま活用できる物件は限られている。（補修等の必要性がある）

→改修等の費用を確保（あるいは回収）しながら進める事業案の検討





## 6. 笠岡諸島の課題

○民間事業者等との新たな視点・テクノロジーを活かした連携

・お金さえあれば…の技術が多い

→資金調達などから新たな視点で考える必要がある



# 6. 笠岡諸島の課題

## ○島々との連携の磨き上げ

- ・高齢化、環境の変化による交流機会の減少
- ・航路・便数の減少など

→新たなテクノロジーの導入なども検討





## 6. 笠岡諸島の課題

### ○海洋体験学習など交流事業のレベルアップ

・コロナ禍で停滞しているが、依頼など展開の機会が多い

→収益に繋がる仕組みづくりの必要性



# 「島で暮らし続けることができる」をあきらめないために

私たちと一緒に仕組み作りに挑戦して下さる人を待っています！

